

ゆくはしの偉人たち

Vol 5. 農業試験場豊前分場の開設に尽力 筒井省吾

新田原果樹園の始まり

行橋市の南部、新田原の台地は福岡県内でも有数の果樹地帯だが、ここで最初に果樹園を開いたのは筒井省吾だった。

筒井省吾は、安政五年（一八五八）七月十四日、松原村で生まれた。幼い日、八津田村（現・築上町）の小野原善言の私塾で国学、漢学を学んだ。明治十八年（一八八五）、二十七歳の時、道場寺村外十カ村の戸長に就任した。戸長とは十カ村の村長の職にあたるが、明治二十二年（一八八九）の町村合併で戸長制はなくなり、仲津村が生まれた。筒井はこの年、「硯山のふもとを開墾して葡萄樹を栽培しよう」と同志五人と共同でブドウ園を開いた。四年後の明治二十六年（一八九三）秋に収穫したブドウは行事村の堤酒造場で醸造されて、末松謙澄も飲んだという記録も残る。



筒井省吾

「千勝園」の開設

明治三十九年（一九〇六）、四十八歳の時、日露戦争の戦勝を祝って、松原に広大な「筒井公園千勝園」と「千勝園農場」を開設した。「千勝園」は五十ヘクタールの広い敷地に、松や梅、桜などを植え、戦前まで、京都郡の花見の名所としてにぎわった。また、「千勝園農場」はリンゴ、梨、桃、柿、いちじく、ブドウ、メロンなどを栽培し北九州に出荷した（千勝園は太平洋戦争直後に閉鎖された）。

県会議員として活躍

大正四年（一九一五）から昭和六年（一九三一）まで四期十六年間、京都郡選出の県会議員を務めた。この間、京都高等女学校（現京都高校）の開校や県農業試験場豊前分場の開設などに尽力した。

彼は養蚕や稲作、果樹園芸など殖産興業の振興に力を注ぐ一方、詩歌や書もうまかったという。号を「勝照」あるいは「晴耕雨読軒」といった。仲津校区内の多くの記念碑には「勝照」とあり、彼の揮毫であることがわかる。

昭和二十年（一九四五）七月、八十七歳で没した。